

寄稿 ウズベキスタン訪問記

現地学生と活発に意見交換 日本人墓地で桜の記念植樹 佐竹ゼミ 山本絵里子
(文2)



私たち佐竹弘靖ゼミ生8人(教養演習=テーマ「文明を歩く」)は、1年間ウズベキスタン研究調査をしてきた総仕上げとして、現地へフィールドワークに訪れた。

ウズベキスタンは、古来より東西文化交流の中心地であり、多くの文化遺産がある。その中の一つ、青の都と呼ばれるサマルカンドのレジスタン広場はとても素晴らしく、その規模の大きさに感銘を受けた。

今回は、それに加えて現地学生との交流・日本人墓地への桜の記念植樹という目的もあった。交流のため訪れたタシケント国立大学とサマルカンド国立外国語大学では、お互いの文化や伝統をより理解するために、討論会が開催された。

どちらの大学でも非常に活発な質疑応答が交わされ、特にサマルカンド国立外国語大学では3時間半に及ぶ長丁場だったにも関わらず、ほとんどの学生が席を離れることなく盛んなやりとりが続いた。この討論会では、ただ観光地を巡り、漠然と過ごすだけでは分からない貴重な情報を得られただけでなく、日本を外から見直すよい機会にもなった。異文化間相互理解が求められる時代に、このような機会を持てたことは本当に幸運だと思う。

ホームステイで家族とも親密に

またその交流の一環として、タシケント国立大学の学生のもとでホームステイをすることができた。私は、双子のファティマさんとゾフラさんの家庭にお世話になった。意外にも、ウズベキスタンでは日本と同じように靴を脱いで家に入る。自家製の伝統料理をいただいたり、バザールに連れて行ってもらったり、夜遅くまで語り合ったりと、とても楽しく過ごすことができた。彼女たちは日本語が非常に上手く、コミュニケーションには全く困らなかったが、彼女たちの家族との意思疎通は身振り手振りに頼るしかなく、ロシア語を少しでも勉強しておけばよかったと後悔した。今度ウズベキスタンを訪れるまでには、片言でも話せるようになっておきたいと思う。

この旅では、本当にたくさんの人たちと出会うことができた。人と出会うということは、素晴らしい。この出会いを大切にしたい。まだウズベキスタンに出会ったことのない人に、ぜひともウズベキスタンの人々と出会って欲しいと思った。

[4月15日/ニュース専修9面]

カナダ見聞記

あらゆる人種が尊重し合い「多民族×福祉」国家を実現 河野香織（経済3）



▲知り合ったカナダ人(右)と筆者。移民事情などをインタビューした。

1月31日から2月9日まで、海外研修・国際交流奨励制度を利用してカナダのトロントに行ってきました。

カナダはさまざまな人種により成り立っている多民族国家です。特に、今回訪問したトロントは現人口の44%が外国出身者で、その割合はニューヨークやシドニーを上回り世界1位です。つまり、世界で最もマルチエスニック、マルチカルチャルな都市なのです。

一方で、トロントは世界で一番住みやすい

ところともいわれています。社会福祉の充実性、治安や環境の良さ、物価の安さを要因としています。「多民族国家」×「福祉国家」。一見、両立が難しそうなの2点が組み合わさっていることに興味を持ち、その真相を探ることがこの旅の目的でした。

市内には80以上ものエスニックコミュニティがあります。中国系の移民が多いため、チャイナ・タウンの規模はとくに大きく、市内に8ヶ所あります。警察署、駅、道路標識などが漢字で書かれていて、生活に根づいたコミュニティが広がっていました。八百屋や雑貨屋は他の地域に比べて断然安かったです。レストランも安くておいしくて、中国系以外の人々にもとても人気のようでした。私も滞在中は何度も足を運んでしまいました。

高い税に見合う 充実のサービス

どこのエリアも治安は良く、人々の顔つきはリラックスしていました。海外なので、必ずや危ない地域があるはずと思っていたのですが、現地の人に聞いてみても「特にない」とのことでした。家に鍵をかけない習慣もあり、びっくりしました。

これだけ安全で、公共福祉も整っているとすれば、気になるのは税金です。カナダの税金は驚くほど高いのです。しかし、「高い税金に見合うだけのサービスを受けているから高いとは感じない」という人が多かったです。例えば、公共図書館はたくさんあって、サービスも充実しています。デパートのように広くてきれいなところもあり、平日の昼間でも、若者からお年寄りまで多くの人々が来ていました。公園も多く、程よく緑があって住環境の良さも目立っていました。お金持ちでなくても十分に幸せに生活できるところであると感じました。

肩肘張らないで 気楽につき合う

私がこの旅で出会った人たちは本当にすてきな人ばかりです。みんな、カナダの安全さと多民族国家ということを誇りにしており、「英語ができなくても、見た目や習慣が違って、人は皆いっしょでしょ」といった気楽さを持っているように感じました。カナダは難民の受け入れにも熱心です。身近にそういった人々が大勢いる環境なので、理解ある人が多いように感じました。私も難民として移民してきた人に出会いました。彼らの話は、とても興味深いものでした。カナダ人はなにかとアメリカとの比較をして、その度に、カナダ人の心の広さを誇りにしていたように感じました。あらゆる人種がそれぞれを尊重しつつ、仲良く共存できる社会はとても理想的だと思いました。

〔4月15日/ニュース専修9面〕